

資 料

深層学習による脳血流SPECT統計解析画像 の認知症分類

Dementia disease classification of the statistical analysis images of cerebral blood flow SPECT using deep learning

山本 泰司¹⁾, 白井 匡人²⁾, 勝部 敬³⁾, 吉廻 毅⁴⁾, 上部 星雄⁵⁾, 宮原 善徳⁵⁾, 北垣 一⁶⁾

1)島根大学医学部 放射線医学講座
 2)島根大学 学術研究院理工学系(助教)
 3)島根大学医学部 放射線医学講座(助教)
 4)島根大学医学部 放射線医学講座(准教授)
 5)島根大学医学部附属病院 放射線部
 6)島根大学医学部 放射線医学講座(教授)(現 神戸市立西神戸医療センター)

Key words: GoogLeNet, AlexNet, Artificial intelligence, Grad-CAM, 3D-SSP

[Abstract]

Using the original deep learning model, we attempted to classify the following diseases from the cerebral blood flow SPECT 3D-SSP images: AD, DLB, and normal cognition. Then, it was compared with the transfer learning of GoogLeNet and AlexNet reported in the past. Furthermore, we tried to visualize accuracy of each analysis and feature image using the Grad-CAM technique. The accuracy was low for AlexNet in AD and for GoogLeNet in DLB. Stable results were obtained in the original model. The size of the feature area captured by each analysis method from the Grad-CAM image differed. The original model captured the area of reduced blood flow in a localized manner.

【要旨】

オリジナルモデルの深層学習を用いて、AD、DLB、normal cognitionにおける脳血流SPECT 3D-SSP画像の疾患分類を試みた. そして過去に報告したAlexNetやGoogLeNetの転移学習との比較も行った.さらにGrad-CAMにより各解析精度の視覚化を試みた. AlexNetではADで、GoogLeNetではDLBで精度が低く、オリジナルモデルでは安定した結果が得られた.Grad-CAMの画像から各 モデルで捉えている特徴領域の位置や大きさに違いがあり、オリジナルモデルが血流低下領域を正確に捉えていた.

緒言

近年,放射線画像の分野でも人工知能(Artificial intelligence:AI)の臨床応用が急速に進み,論文での報告も多い.代表的なものでは頭部CTでの脳出血検出¹⁾やMRAからの未破裂動脈瘤検出²⁾, Computed tomography(CT)やMagnetic resonance imaging

YAMAMOTO Yasushi¹, SHIRAI Masato²⁾, KATSUBE Takashi³⁾, YOSHIZAKO Takeshi⁴⁾, UWABE Hoshio⁵⁾, MIYAHARA Yoshinori⁵⁾, KITAGAKI Hajime⁶⁾

- 1) Department of Radiology, Faculty of Medicine, Shimane University
- 2) Institute of Science and Engineering, Academic Assembly, Shimane University
- 3) Department of Radiology, Faculty of Medicine, Shimane University
- 4) Department of Radiology, Faculty of Medicine, Shimane University
- 5) Department of Radiology, Shimane University Hospital
- 6) Department of Radiology, Faculty of Medicine, Shimane University

Received July 7, 2021; accepted November 7, 2021

(MRI) でのノイズ低減技術³⁾ や再構成技術⁴⁾ へ の応用など多岐にわたる. 2019年にはMagnetic resonance angiography (MRA) からの脳動脈瘤を 検出するソフトが国内初の薬事承認を得る段階までき た. 核医学分野に目を向けると、Positron emission tomography (PET) 画像からCT画像を生成し減 弱補正に利用する試みが報告されている⁵⁾. Iizuka らは、脳血流 Single photon emission computed tomography (SPECT) からのThree-dimensional stereotactic surface projection (3D-SSP)⁶ 画像を 深層学習(Deep Learning: DL)から認知症分類を 行い、特異的血流低下領域の視覚化から妥当性を報告 している⁷⁾. 著者らのグループも, 脳血流 SPECT 画像 からの3D-SSP画像を用いてオリジナルの深層学習モ デル(O.N)から認知症の分類を試みてきた⁸⁾. さら に上部らのシミュレーション学習データの考え⁹⁾を応 用し,認知度の高いAlexNet (A.N)¹⁰⁾ や GoogLeNet (G.N)¹¹⁾ で認知症の分類も検証・報告している^{12,13)}. 今回, O.NでもA.NやG.Nの報告同様のデータ群か ら識別精度を算出し比較評価した. さらに畳み込み ニューラルネットワーク (Convolutional neural network: CNN)の可視化技術であるGradientweighted Class Activation Mapping (Grad-CAM)¹⁴⁾ を用いて, O.NがG.NやA.Nとどのように 異なるかをGrad-CAMヒートマップ画像から比較し た.

1. 方法

1-1 使用モデル (A.N, G.N, O.N)

O.Nは、4層のCNNと3層のPooling層で構成した. 詳細な設定についてはFig.1に示す. 解析には Matlab 2019b (Mathworks社), Deep learning toolbox, Image Processing toolbox, Computer vision toolbox, Parallel computing toolboxを使 用した. 今回の比較対象であるG.NやA.Nの詳細につ いては参考文献^{10,11)} で記述した.

1-2 画像データの作成

解析に使用した画像はN-Isopropy [¹²³I] -p-Iodoamphetamine (¹²³I-IMP) 167MBq, 脳血流 検査から得た3D-SSP Z-score map, 収集装 置 Discovery NM/CT 670pro, 画像再構成 3D-OSEM法 (subsets 10, iterations 6), 散乱線補正 Dual energy window法, 減弱補正 CT based Attenuation correction法を用いた. 3D-SSP解析 には、島根大学ノーマルデータベースを使用した. 3D-SSP標準出力画像Fig.2 (C) は正面・後面・左右側 面・左右内側面の脳表表示8方向,890×660ピクセ ルの画像となるが、G.NやA.Nとの比較評価の目的か ら画像サイズはA.Nと同じ224×224ピクセル(G.N は227×227ピクセル)とした. その際. ターゲットと なる血流低下領域 (Z-score 描出領域) での画像縮小に よる検出精度の低下を避ける目的から,8方向の脳表画 像から, Fig.2 (D) に示すように Alzheimer's disease (AD) やDementia with Lewy bodies (DLB) で の特異的血流低下領域の識別に重要と考えられる左右 の外側面 (R.Lat・L.Lat), 左右の内側面 (R.Med・ L.Med) の4方向を選択,使用データ全てで同じ座標 上に画像配置されるように再作成した. 解析には学習 用データ (Training), Trainingの精度評価用データ (Validation), クラス分類を行う臨床データ(Test)の3 群が必要となる. Training については, 上部らの報告同 様⁸⁾ に AD・DLBの特異的血流低下を模擬した SPECT 画像のシミュレーションデータから作成した3D-SSP 画像を用いることとした. シミュレーションデータの ベースとなる SPECTデータは、2013年にノーマル データベース用に収集した¹²³I-IMP 健常者データ28

(A)			(7) (8) (9) (9) (13) (14) (15) (16)	G C <mark>∭ C []],</mark> C <mark>∭</mark> 5) (17) (18) (19)	
(B)	Image input layer(1)		Convolution 2Dlayer(6)		
(-)	Input Size	[224,224,3]	Channels	16	
	Convolution 2Dlayer(2)		Batch normalization layer(7)(11)(15)		
	Filter Size Channels Stride	[3,3] 8 [1,1]	Convolution 2Dlayer(10) Channels Convolution 2Dlayer(14)	32	
	Padding	zero padding	Channels	64	
	WeightsInitializer Xavier Batch normalization layer(3)(7)		Full connected layer(17)		
			InputSize	50176	
	ReLU layer(4)(8)(12)(16)		OutputSize	3	
	Max pooling 2Dlayer(5)(9)(13)		Bias	[-0.04;-0.02;0.06]	
	PoolSize Stride	[2,2] [2,2]	WeightsInitializer	Xavier	

Fig.1 Configuration diagram and parameters of the original model.

It comprises 4 convolution layers and 3 pooling layers. (A: Configuration diagram created with deep network designer in matlab.)

例 (男性15人:67.7±6.2歳,女性13人:68.1± 5.7歳)を使用し, Statistical parametric mapping 8 (SPM8)¹⁵⁾ でMontreal neurological institute (MNI) 脳座標に変換後, Voxel-based analysisstereotactic extraction estimation (vbSEE)¹⁶⁾ Level3の神経学的Volume of interest (VOI) 領域 を利用し, ADでは左右の頭頂葉領域に位置する角回・ 上頭頂小葉・下頭頂小葉・縁上回に加えて、後部帯状 回・楔前部の6領域, DLBは, 後頭葉領域に位置する 上後頭回・中後頭回・下後頭回に加え、一次視覚野に当 たる楔部・舌状回の5領域を血流低下領域としてマス ク画像を作成, 各マスク内のカウントを35, 30, 25, 20%と段階的に低下させたマスクデータをベース画 像に掛け合わせることで、さまざまなパターンの認知 症SPECTデータを作成した. それらの3D-SSP解析 から得た各血流低下の Z-score mapより, Z-score の閾値設定(Fig.2(C)2),正規化部位設定(全脳: GLB, 視床:THL, 橋: PNS, 小脳: CBL③) を各 画像で可変とすることでAD・DLB各341例のシミュ レーションZ-score mapを作成した. (D) は①に当 たるADの特異的血流低下領域のカウントを35%減 とし,4方向の抜粋で作成. (E) は特異的血流低下領域 20%のカウント低下, (F) は (E) の参照部位をGLB からTHLに変更, (G) は (E) の閾値設定を変化させ た各Trainingの一例を示す.以上の方法で健常者28 症例から AD·DLBシミュレーション Training を 341 例に増やした.ただし、参照部位については認知症 診断を得意とする経験20年以上の放射線科専門医が AD・DLBと判断できないものは除外している. 詳細な データ内訳については文献¹⁰⁾で記載した. Fig.2 (H) はDLB, (I) はN.CのTrainingの一例を示す. Test は、2020年3月から過去にさかのぼり¹²³I-IMP脳血流 SPECTを施行した患者データのZ-score mapから, 放射線科専門医によりAD・DLB・NCと判断された 各20症例を採用、さらに正規化部位から最適と判断さ れた2画像を採用することで40症例とした. 患者背景 $t_{\rm AD} \approx Age (y); 72.3 \pm 3.8, M/F; 15/5, DLB$ $\tau 80.5 \pm 7.3$, M/F;10/10, NC $\tau 67.8 \pm 15.4$, M/ F;6/14である. ValidationはAD・DLB・NCの Trainingから参照部位GLB, 閾値下限設定1.0, 上限



Fig.2 AD and DLB simulation images and the NC image used for the training.

(C) Original image of 3D-SSP, (D) AD simulation data created from C (\Rightarrow :-35%), (E) Simulation image of AD (\Rightarrow :-20%), (F) Simulation image of AD (Changed reference region from GLB to THL), (G) Simulation image of AD (Changed Z-score threshold), (H) Simulation image of DLB, (I) NC image.

学術

設定5.0の28例を固定解析で使用した.

1-3 評価方法

AD・DLB・NCの判断について、放射線科専門医の 診断結果を正解として、正解データ数の割合である正 解率 (Accuracy), 全陽性のうち正解した割合(精度) を示す適合率 (Precision). 感度・検出力を示す再現率 (Recall), 総合的な指標値となる F値 (F-measure) で 評価した. 真陽性 True positive: TP, 偽陽性 False positive: FP, 偽陰性 False negative: FN, 真陰性 True negative:TNで示すと,Accuracy=TP+TN/ 総数, Precision=TP/TP+FP, Recall=TP/TP+FN, F-measure=2 × (Precision × Recall) / (Precision + Recall) となり, 各指標値は 20 回の平均値と標準偏 差で比較評価した.またどの血流低下領域からクラス 分類が決定されたのかは、Grad-CAMによるヒート マップの画像から視覚的に評価した。なお、本研究内 容は島根大学医学部医の倫理委員会の承認を得て行っ ている.

2. 結果

Fig.3に、過去の報告から引用^{10.11)}したG.NとA.N での病型別RecallにO.Nの結果を加えたグラフを示 す.**Fig.3**と**Table 1**からADのRecallはO.N (0.83 ±0.09)>G.N (0.82±0.12)>A.N (0.52±0.12), DLBではO.N (0.85±0.05)>A.N (0.74±0.09) >G.N (0.42±0.12), NCではO.N (0.86±0.06) >G.N (0.78±0.08)>A.N (0.76±0.06) であ り、ADのG.N、O.Nで有意差はなかったが、他は有 意差をもってO.Nが高値を示し、O.NのTraining, Validiaionでは多くの指標値が1.0であった. Fig.4 は、参考文献¹¹⁾から引用したA.N・G.NのGrad-CAM ヒートマップ画像に、O.Nの結果を加えた. 解析モデ ルによりヒートマップされている領域の大きさと分布 形状は異なるが、(J, K, L)の各モデルのADでは両 側後部帯状回・楔前部・側頭・頭頂葉、(M, N, O) のDLBでは両側側頭・後頭葉にヒートマップされてい



Fig.3 The graph shows the recall in each model by disease type.

In the AD group, G.N and O.N showed high values, and there was no significant difference in them. In the DLB group, O.N showed the highest value, which was significantly different from those of G.N and A.N. Additionally, O.N was high in NC, and it differed from A.N and G.N.

Data type	Evaluation method	AD	DLB	NC	Accuracy	
	Recall	0.83±0.09	0.85±0.05	0.86±0.06	0.84±0.02	
Test	Precision	0.84 ± 0.05	0.83±0.06	0.87±0.06		
	F- measure	0.83±0.04	0.83±0.04	0.86±0.03		
	Recall	1.00	1.00	1.00	1.00	
Training	Precision	1.00	1.00	1.00		
	F- measure	1.00	1.00	1.00		
	Recall	1.00	1.00	0.98±0.02		
Validation	Precision	0.98±0.02	1.00	1.00	0.99±0.01	
	F- measure	0.99±0.01	1.00	1.00		

Table 1Recall, Precision, and F-measure in O.N analysis method were calculated separately
for AD, DLB, and NC.

る. (P, Q, R)のNCでは血流低下のない領域をヒー トマップした.

3. 考察

最初に本研究におけるO.Nのシミュレーショ ン学習データについて、Table 1でのTrainingの Accuracyは全病型1.0であり、AD・DLBは異なった 画像パターン(異なった特徴量画像)で構成されている ことになり、Validiationの結果からも典型的な血流 低下パターンの3D-SSP画像であれば正確に分類可能 であり、本研究での学習データ群として問題ないと判 断した. Fig.4 (J, K, L)のADヒートマップからA.N やG.NではZ-scoreの高い領域は正しく捉えている が、ヒートマップが広い領域に及び、(J) R.Medのよ うにDLBでの特異的低下領域である後頭葉にまで広 がっているケースや、(K) L.Latのように頭頂葉での ヒートマップが弱いケースがあることから、Z-score 描出領域がADやDLBの特異的領域に限られ、かつ 高値のZ-scoreであることが正確に分類できる条件 であることが予測できる. Fig.4 (M, N, O) のDLB での後頭葉について注目するとO.N・A.N・G.N全て でR.Medで強くヒートマップされ、L.Medは弱いこ とから, (K) L.Latと同様にZ-scoreの「高い」「低 い」を特徴の一つとして認識されていることが示唆さ れる. またG.Nの(N)では左右の後頭葉が1つの大 きな領域として捉えられていることから、ヒートマッ プの中心が画像のない部分に存在している.他にも同 じ傾向の症例が存在し、解析モデルそのままの設定条 件の転移学習ではZ-scoreの領域に限局した特徴量 検出はできなかった. Fig.4 (P, Q, R)のNCについ ては特異的血流低下領域が存在しないことから、画像 全体がヒートマップされ特徴領域を絞り切れない結果 と判断できる. Fig.5 (S, U, X) は各モデルで放射 線科専門医の診断と異なるクラス分類となった画像を 示す, (S) はA.NでADをDLBと分類した例である が、ヒートマップがDLBの血流低下領域である後頭葉 (⇒)まで広がったことで識別を誤った. そこでA.N のAD Training画像を調べると, (M) に示すように 作成した血流低下領域より下方のZ-scoreにヒート



Fig.4 Heat map of A.N, G.N, and O.N analysis images classified as AD, DLB, and NC by matching with the radiologist's reading results.

Heat map of images classified as (J) AD, (M) DLB, and (P) NC by A.N. Heat map of images in which the same image is classified as (K) AD, (N) DLB, and (Q) NC by G.N. Heat map of images in which the same image is classified as (L) AD, (O) DLB, and (R) NC by O.N. (\Rightarrow) indicates a heat map region that correctly recognizes the specific blood flow reduction region in AD and DLB, and NC heat map region without blood flow reduction.



Fig.5 Heat map of images in which the radiologist's reading results and classification results did not match. (S) In A.N, AD was erroneously classified as DLB. (U) In G.N, DLB was erroneously classified as AD. (X) In O.N, DLB was erroneously classified as AD. (⇔) indicates the heat map area that caused the erroneous classification of AD and DLB. (T) AD in A.N (V) DLB in G.N (Y) AD in O.N, heat map area of each train data.

マップされた画像も存在し、DLBとの区別化が可能 となるようにADの特徴を持ちつつ、後頭葉にも低い Z-scoreが存在する学習データの追加も再検討する必 要がある. (U) はG.NでDLBをADと分類した例で あるが、後頭葉のヒートマップが弱く、帯状回領域を 強く捉えている. (V) はG.NのDLB Trainingの一 例を示す. Fig.4 (N) でも同様にR.Lat, L.Latの後頭 葉を1つの特徴として広くヒートマップされたことか ら, 左右対称ではなく片側のZ-scoreが小さいデータ もTrainingに加える必要がある. (X) はO.NでAD をDLBと分類した例であるが,帯状回の血流低下が強 く. 放射線科専門医は高Z-scoreの影響と判断できた がO.Nでは判断できなかった例である. (Y) はO.N のAD Trainingの一例を示すが、O.Nではわずかな Z-scoreや位置の違いも識別はできることから、(X) のような学習データの追加で対応が可能と推測する.

一般的に、G.Nのように層が深くなるモデルでは学 習対象のパラメーターが多いことからも、学習データ の数を増やして検証する必要がある。A.Nについては O.Nに比較して畳み込み層が1層多いのみであるが、 それぞれの畳み込み層が持つチャンネル数が多いこと から、G.N同様に多くの学習データが必要である。ま た正規化処理でLocal Response Normalizationを 使用しているが、O.NではBatch Normalizationに することで内部の変数分布の変化を小さく抑えること が可能になり、学習時の結果をより正確に推定結果に 反映できる.この研究のように、学習データの特徴のバ ラツキが小さい、クラス分類数が少ない、画像全体と しての形状差がない、異なるのはZ-scoreの分布形状 とZ-scoreのみというケースの場合、O.Nのようなシ ンプルなモデルでも分類が可能であった.ただし、学 習データを充実させ、各モデルに適したパラメーター を使用すれば、結果は異なることも考えられる.

4. 結 語

深層学習を用いて、脳血流SPECT・3D-SSP画像の 認知症の分類を試みた.学習データはシミュレーショ ンから作成した341データ、症例はAD・DLB・異常 なしの各40データ、解析モデルは4層のCNN、3層の Pooling層を持つO.Nを使用.放射線科専門医の診断 に対し8割以上の精度で分類可能であった.われわれ が過去に報告したA.N・G.Nの転移学習より良い結果 であった.Grad-CAMによる特徴量領域の視覚化で 比較すると、O.NはA.NやG.Nより限局した特異的 血流低下領域を捉えていた.今回のように、同じ種類 の画像,分類数が少ないケースでは層の少ないD.Lで も対応可能であった.しかし,さらに多くの学習デー タを準備して各モデルを比較することも必要である.

利益相反

筆頭著者および共著者が開示すべき利益相反はない.

表の説明

Table 1 O.NでのRecall・Precision・F-measureの値をAD・ DLB・NCに分けて算出.

図の説明

- Fig.1 オリジナルモデルの構成(A)とパラメーター(B). 4層の畳み込み層と3層のプーリング層で構成. (A:Matlabのディープネットワークデザイナーで作 製した図).
- Fig.2 学習に使用したADとDLBのシミュレーション画像およびNC画像の1例を示す.

(C) 3D-SSPのオリジナル画像, (D) Cから作成したADのシミュレーションデータ(⇒:-35%), (E) ADのシミュレーションデータ(⇒:-20%), (F) ADのシミュレーションデータ(参照領域をGLNからTHLへ変更), (G) ADのシミュレーションデータ(Z-score閾値変更), (H) DLBのシミュレーションデータ, (I) NCのデータ.

Fig.3 各モデルでの適合率(Recall)を病型別に示す.(山 本泰司,他:転移学習を応用した脳血流SPECT 統計解析画像の識別.核医学技術,41(2):213, 2021.より引用一部改変).

AD群ではG.NとO.Nで高値を示し有意差がなかった。DLB群ではO.Nが最も高値を示し、G.NやA.Nと有意差があった。NCでもO.Nが高値であり、A.NやG.Nに対して有意差があった。

Fig.4 放射線科専門医の読影結果と一致してAD・DLB・ NCと分類されたA.N・G.N・O.N解析画像のヒート マップ(山本泰司,他:転移学習を応用した脳血流 SPECT統計解析画像の識別.核医学技術,41(2): 214,2021.より引用一部改変).

A.Nで (J) AD, (M) DLB, (P) NCと分類された画像のヒートマップ (⇔). 同一画像をGNで (K) AD, (N) DLB, (Q) NCと分類された画像のヒートマップ (⇔). 同一画像をO.Nで (L) AD, (O) DLB, (R) NCと分類された画像のヒートマップ (⇔).

Fig.5 放射線科専門医の読影結果と分類結果が一致しな かった画像のヒートマップを示す.

> (S) A.NでADを誤ってDLBと分類,(U) G.NでDLB をADと分類,(X) O.NでADをDLBと分類.(⇒)は AD・DLBの識別を誤った原因と予測できるヒートマッ プ領域.(T)はA.NのAD,(V)はG.NのDLB,(Y)は O.NのADの各Trainingデータ.

参考文献

- Chilamkurthy S, Ghosh R, Tanamala S, et al.: Deep learning algorithms for detection of critical findings in head CT scans: a retrospective study. Lancet, 392 (10162): 2388-2396, 2018.
- Ueda D, Yamamoto A, Nishimori M, et al.: Deep Learning for MR Angiography: Automated Detection of Cerebral Aneurysms. Radiology, 290(1): 187-194, 2019.
- Tatsugami F, Higaki T, Nakamura Y, et al.: Deep learning-based image restoration algorithm for coronary CT angiography. Eur Radiol, 29(10): 5322-5329.
- Ryu K, Nam Y, Gho SM, et al.: Data-driven synthetic MRI FLAIR artifact correction via deep neural network. J Magn Reson Imaging, 50(5): 1413-1423, 2019.
- 5) 福井亮平,藤井進,二宮宏樹,他:深層学習を用いた PET画像の減弱補正を目的とした疑似CT画像の作成,日 放技学誌,76(11):1152-1162,2020.
- Minoshima S, Robert A. Koeppe M. A, et al.: Anatomic standardization; Linear scaling and nonlinear warping of functional brain images. J Nucl Med, 35(9): 1528-1537, 1994.
- Iizuka T, Fukasawa M, Kameyama M: Deep-learningbased imaging-classification identified cingulate island sign in dementia with Lewy bodies. Sci Rep, 9(1): 8944, 2019.
- 4)山本泰司、上部星雄、矢田伸広、他:人工知能を利用した脳血流SPECT統計解析画像の識別.核医学技術、40
 (4):407-412,2020.
- 9) 上部星雄,山本泰司,矢田伸広,他:シミュレーションデー 夕を用いたディープラーニングによる脳血流SPECT統計解 析画像の血流低下パターンの分類精度.日放技学誌,77 (6):581-588,2021.
- 10) Krizhevsky A, Sutskever I, Hinton G: ImageNet Classification with Deep Convolutional Neural Networks. Communications of the Acm, 60(6): 84-90, 2017.
- Szegedy C, Liu W, Jia Y, et al.: Going Deeper with Convolutions. 2015 IEEE Conference on Computer Vision and Pattern Recognition (CVPR), 7-12, 2015.
- 12) 山本泰司,上部星雄,矢田伸広,他:GoogLeNetを利用 した脳血流SPECT統計解析画像の識別.核医学技術,41 (2):204-209,2021.
- 13)山本泰司,上部星雄,矢田伸広,他:転移学習を応用した脳血流SPECT統計解析画像の識別.核医学技術,41
 (2):210-215,2021.
- 14) Selvaraju R, Cogswell M, Das A, et al.: Grad-CAM: Visual Explanations from Deep Networks via Gradient-Based Localization. International Journal of Computer Vision, 128(2): 336-359, 2020.
- 15) 織田圭一:核医学における臨床解析ソフトウェアの基礎と応用 1-3 SPM. 放射線医療技術学叢書(28), 16-22, 日本放射線技術学会, 2011.
- 16) Uruma G, Hashimoto K, Abo M.: A new method for evaluation of mild traumatic brain injury with neuropsychological impairment using statistical imaging analysis for Tc-ECD SPECT. Annals of Nuclear Medicine, 27(3): 187-202, 2013.